



すずらん

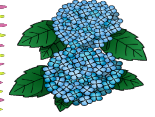
たのもしく ただしく たくましく

天理市立福住小学校

第2号 令和2年6月2日

文責 神元 聡

～自分で計画し、自分で工夫して学習する～



新型コロナウイルス感染症対策により学校が休業になり3ヶ月が経ちました。この3ヶ月間は、学校での授業が行えず、家庭での自学自習による学習形態になりましたが、子どもたちは、うまく学習を進めることができたでしょうか。保護者の皆様のご協力本当に感謝いたします。

以前、私は、小学生バレーボール大会で何回も全国優勝している監督と話をする機会を得ました。そこで「先生は、バレーボールの経験者でもないのに、どうやって、チームを強くしたのですか？」と私がずっと疑問に思っていたことを尋ねたところ、その監督さんは、「私は難しいことは何一つしていませんよ。たった一つのことをしているだけです。」とおっしゃいました。そのたった一つのこととは、毎日、「どうしたら強くなると思う？」と選手たちに語りかけるだけだということです。まず、「どんな練習をしたら強くなると思う？」と問いかけるそうです。すると、子どもたちは、自分たちでよいと思う練習方法を考え、一生懸命練習します。次に、自分たちより少し強いチームと練習試合を組みます。残念ですが、チームは負けてしまいます。そこで、監督は「どうしたら、あのチームに勝てると思う？」と選手たちに問いかけます。子どもたちは、レギュラーも補欠も一緒になって熱い議論を交わし敗因を見つけ出します。弱点を克服するための練習を計画し、再度、練習を開始します。そして、もう一度前回負けたチームに試合を挑みます。負ければ、また同じことを選手に投げかけ、勝てば、今度はもう少し強いチームに試合を申し込みます。こうして、一つ一つ階段を上っていき、最後に日本で一番強いチームに挑戦し、自然と日本一になるということです。

もし、この監督がバレーボールの専門家なら、強くなるための効率のよい練習方法を山ほど知っており、監督自身が効率のよい練習ルールを敷き、それぞれの練習における留意点も子どもたちに丁寧に教え、熱血指導していたかもしれません。しかし、この方法でチームづくりをすると、最初のうちは順調に結果が出るのですが、ある程度に達すると自分たちで考えてプレーする場面が多くなり、監督がすべてを指示することができなくなります。監督の大きな声だけが体育館に響き渡り、子どもたちのやる気は一気に失せてしまいます。

一方、自分たちで計画して工夫して練習をしているチームは、壁にぶち当たり足踏みをしたり、一見遠回りに見える練習になったりしますが、主体が子どもたちなので、やる気が失せることはありません。イソップ物語のカメのごとく、立ち止まりながらもコツコツと上達し続け、最終的には効率のよい練習をやらされているチームを打ち負かすということです。

私は、学習も全く同じだと考えています。様々な個性をもつ子どもたちに、同じルールを敷き、効率よく一斉に教え込む教育は、結局子どもたちのやる気は、続かないと思います。「先生にやらされる学習」と「自分で工夫して行う学習」。子どもにとって楽しいのはどちらでしょうか。答えは明白です。そして大事なものは「楽しい」の対象が「学習」であるということです。

ピンチはチャンスといいますが、私は、今回のコロナの経験は、自学自習を考える絶好の機会を与えてくれたと考えています。子どもたちにとっては、初めての経験ですので、自学自習に戸惑い、生活のリズムが崩れたり、宿題がたまってしまったりと、うまくいかなかったことも多かったと思います。この一年間を通して、『自分で計画し、工夫して学習する』子どもたちを育みたいとスタッフ一同意気込んでいます。今後とも保護者の皆様のご協力よろしくお願ひします。

けてぶれ学習法



「けてぶれ」学習法とは、葛原祥太先生が提唱している「計画／テスト／分析／練習」の頭文字を取った自学自習の学習法です。ご参考までに紹介しておきます。

- け：①その日の学習を見通し
- て：②ドリルを開いてテストをしてみよう
- ぶ：③間違えたところを分析し
- れ：④それを克服するために練習する